

発行者 新潟市西区自治協議会 会長 真嶋 民雄
事務局 〒950-2097
新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 西区地域課内
TEL: 025-264-7161 FAX: 025-269-1650
E-mail: chiki.w@city.niigata.lg.jp

西区の宝物をたくさん詰め込んだロゴマークです。新潟スイカ、赤塚大根、黒地茶豆、佐潟の白鳥。その上に日本海に沈む夕日と大学を表す博士帽を乗せました。

うちのコミ協

「コミュニティ佐潟 *潟普請*

佐潟では、昔から地域の人々によって、農業用水としての利用や漁業、運木の採取などが行われてきました。夏は村をあげて湖底の枯れた植物やドロの清掃活動「潟普請」を行い、翌年の春はドロを岸辺の潟田にあけて有機肥料として利用するなど、人々の暮らしと密接に関係しながら潟が保全されてきた歴史があります。



泥あげをしている中学生

景観の改善を図るために行い、今年で15回目になります。
（「コミュニティ佐潟」会長 石黒伸太）



「ママの小さい彼氏♡」

とっておきの

私の一枚

ペンネーム ●とっくんさん
一言コメント ●息子はとても大切な存在です♡
一枚と言わず二枚です！

自治協1年生、4月から2年生 新しい課題にチャレンジ

長谷川 イミ

私は第2部会とプロジェクトチーム3に所属しています。プロジェクトチーム3の事業であるアートフェスティバルは大変やりがいがありました。チラシを友達に配ったり、お店などに置いて頂いたりしました。当日は、舞台袖でお手伝いをさせてもらいました。疲れたけれど、やりがいがあり、大成功に終わったことは、本当に良かったです。



村井 良次

地区の高齢化率が30~40%代と高く、コミ協の福祉部長と高齢化問題に取り組んでいます。地区では、民生委員、児童委員、友愛訪問委員の力により「地域の茶の間」や「見守り」、ふれあい行事も行われています。しかし、年々高齢化は進行しています。単身世帯や高齢者のみの世帯が増えています。高齢化問題の改善が少しでも進むことを期待します。



山田 昌夫

地域コミ協の代表として、「自治の深化」「協働」などの新用語？に戸惑い、先輩委員の熱意ある発言に圧倒された1年でした。私は、防災や環境を検討する部会に所属していますが、西区の中でもそれぞれの地域によって課題も異なり、生活区域での関わりから西区全体での関わりへと、目線が変わってきた気がします。



内田 亨

自治協では、70歳代、80歳代の委員が「熱い」と感じました。こうした諸先輩方のパワーに圧倒されつつ、何とかついていった1年間でした。1年目は、大学生と先輩委員と一緒に「特色ある区づくり事業」に一つの提案をしたことが、貢献できたことかもしれません。2年目には、その提案を成功させることに邁進したいと思います。



玉野 寛

前任者が2期4年の任期を終了したことで委員を引き継ぐこととなりました。第1回目の会議で、資料の多さ、仕事の責務に「荷が重い」と感じたのは私一人ではないと思います。住みよい西区にするために私が出れることはあるのか...まあいいか、悩むことはやめ、コミ協と相談しながらその都度知恵を絞ることにしよう！



富岡 照子

「自治協議会」には聞きなれない言葉でした。第1回本会の案内をいただき、不安な気持ちで会場に向かったことが忘れられません。会議では西区における様々な問題に取り組み、住みよい環境づくりをしようという熱い空気を感じました。それに対し、何もできない自分に「これだよいか」と自問した1年でした。来年度は少しでも前進できればと思います。



新潟市衛生環境研究所では食中毒や感染症、河川の水などの調査研究を行っています。研究所には見慣れない検査機器が沢山あり、中には数千円するものもあるそうです。注意が必要な病原体のシベルに反応して検査室が設けられ、安全性に配慮した構造になっています。インフルエンザの遺伝子まで検査できるというので驚きます。

10年前に比べ今はウイルスに関する検査が多いと話されるのは、従来の竹之内さん。各検査結果は国へ報告することも、ホームページで情報を公開しています。衛生と環境の分野から私達の生活を支えています。

(日本)



研究風景

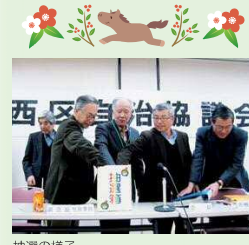
新潟市衛生環境研究所

【住所】 西区小2151番地1
【アクセス】 大堀経由内野営業所行きまたは信楽園病院行き「坂井東二丁目」バス停から徒歩7分
【車】 新潟西ハイパス 小新インターまたは亀貝インターから5分

新春 お年玉付き クロスワードパズル正解

皆様から405通の回答をお寄せいただきました。いただいた広報紙「自治協活動」への感想は、双方方向の広報紙編集を目指している編集委員をはじめ、自治協委員にとってお宝となりました。ありがとうございました。

図書カード当選者20名は、2月



抽選の様子

編集後記

自治協広報紙年4回発行は、初体験の者には大変です。でも、新年号の「クロスワードパズル」に寄せられた感想、激励に、感動をいたした元気が倍です。第9号では、私と同じ自治協委員1年生が活動を振り返りました。今後とも「西区を豊かに」を一緒に育んでくださるようお願い致します。

(広瀬)

募集

広報紙や自治協議会活動についての意見

●送付先/住所、氏名、連絡先をお書き添えの上、広報紙1面の事務局へ送付を郵送または電子メールにてお願いします。

とっておきの私の一枚

●あなたのお自撮りの写真(家族・ペット・風景イベント等に住所・氏名氏名は必須、ペンネームがあればペンネーム掲載・連絡先・写真タイトル、一言コメントを添えてご応募ください。電子メール可)採用者には千円の図書カードを贈呈。●応募された写真は返却しません。●締め切り4月末日(次号掲載予定) ●送付先/広報紙1面の事務局へ

“いじめ”をテーマに 2つの集い



自治協では、「いじめ」をテーマに、昨年12月7日に講演会「地域で子どもを育てる」を、今年2月2日にはワークショップ「いじめ予防、大人にできること」を開催しました。

講演会「地域で子どもを育てる」

講演会の講師には、新潟青陵大学看護福祉心理学部准教授花澤佳代さんを迎えました。講師は「これまで関わった子どもたちの事例を紹介し、子どもとの関係を改善していくスクールソーシャルワーカーの経験を通じて、子どもたちは親の思いや意向をくみ取って困っている、自分の気持ちや自分がかたいことを表現できなくなっている、子どもたちが困らなくなるためには親の困りごとを取り除かないといけない」と話されました。また、子どもにとって必要なことを話し合うためには、「親や地域の力が必要だと話され



講演する花澤佳代先生

「私たちができることを教えてくれました。最後に「明日から何ができるかわからない」という思いはあるが、何かしなければ変わらぬ。朝、子どもやその親たちに「おは

よ」と声を掛けるなど、人々との関わりを持つことと締めくくりました。

私たちができること

- 自分自身に向けて
 - ・自分の価値観を意識する。
 - ・相手のことを認めながら自分の考えを伝える。
- 学校や社会に向けて
 - ・興味を持ち、何をしているか意識して関わる。
 - ・子どもにとって必要な人を見分ける目を持つ。
 - ・自分自身がどう感じ取ったか、思いを表明していく。

ワークショップ「大人にできること」それは…子どもの話を聴くこと

ワークショップはNPO法人子ども人権ネットOAP※にいがたのスタッフが参加者との対話や寸劇を交えながら進行了ました。初めにスタッフが、「いじめを含むあらゆる暴力にあいそうになった子どもは大人は何ができるか」と参加者に問いかけ、「あなたは大切な人だ」と伝え、子どもが「ああ、私は大切にされて

※Child Assault Prevention…子どもへの暴力防止

いるんだ」と感じさせることが重要だと伝えました。また、「いじめを含む暴力とは人の心からだを深く傷つけること」であり、「子どもが生きていくために大切な3つの権利、安心・自信・自由を奪うもの」と説明しました。「いじめ」にあった子どもたちは、「いやだ」と言ってもいいんだ、「逃げてもいいんだ

よ」信頼できる大人に相談してもいいんだ」と伝えることが重要であり、相談された大人は「聴くこと」が大切だと言っていました。特に子どもの「ひどい事をされて悔しい」といふ気持ちに「うん、悔しかったね」と気持ちの言葉を繰り返して共感することが大切だと強調しました。参加した30代の母親は「大人が正しい知識を持つことが大切



参加者に語りかけるCAPスタッフ

「西区まちづくりシンポジウム」開催 まちを笑顔に

1月21日に黒崎市民会館で自治協と西区役所が共催して「西区まちづくりシンポジウム」を開催しました。当日は、約150人の自治会長等が参加しました。司会は、スマートウェルネスシティにいがた健康大使の江口歩さん(新潟お笑い集団NAMARA代表)と今井美穂さん(地域活性化モデル)のお二人でした。



左から服部さん、山本さん、春日さん

●市報にいがたに掲載されていた「市政世論調査結果」の「コミュニティ協議会や自治会の活動に参加しない理由」として「ゆとりがない」「魅力がない」「知り合いがいらない」「活動の情報がない」等とあったことを紹介しながら、「自治会って何をやるのか?」「この質問が出されました。

★DVD貸出中です!
まちづくりシンポジウムのDVDを貸出しています。詳しくは、西区役所地域課(264-7172)まで。



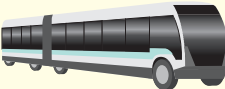
進行役の江口さん(左)、今井さん(右)

●軽妙な司会進行で3人の自治会長から活動報告を受けました。特に「自治会活動で困っていること」に議論が集中しました。
●春日「役員の成り手がいない。私が一生懸命やりすぎて他の人が敬遠してしまっのかも」
●服部「役員の対象者が少なく、在宅者のパワーでやりくりしているのが限りがあ」
●山本「サポート体制ができていないので私は楽しくありません。婦人会が助けてくれる」
●この言葉を受け、客席にいた婦人会の方にお話を聞く場面も。

●最後は司会のお二人から、「何と申しても一緒に集まって楽しめる企画が重要です。『まちを笑顔に』するには楽しむことが大切です。』と締めくくっていただきました。
●服部「自分の住んでいる所を安心で安全にしていくのが自治会の役割」
●山本「地域には農家も多い。区役所での朝市をもっと盛り上げていきたい」
●春日「多子高齢化(子どもが多く高齢者が少ない)の地域で自治会の行事を通して住民の一体感を図ってほしい」

自治会長をやって6年になる。自治協平成19年度に97世帯で登記。現在525世帯、1700人と急増。子供が700人、子育て世帯が多い。年々町内会員が増え、活動もマンネリ化してきたので、昨年度実施したアンケートを踏まえて3本の柱を決めた。
①お互いの交流は顔の見えないお隣か。
②専部の確立環境文化広報文教。
③まち全体の安心・安全の確保。

今後、各コミュニティ協議会を通じて地域の要望を吸い上げて、「改善プラン」に反映していきたいと考えています。
ご協力をお願いします。
od.



●松海が丘第三自治会長 服部賢
高齢化が進んで、真砂会館が遠くになってしま、お互いに思いやりを持って、町内の空き家を借りて地域の茶の間のめくりの会を開き、田舎やパソコン講習をやったり、昔話を持ち寄って語り合っている。実際は区役所や自治会からの補助で運営している。
町内会のお助け隊では高齢者のお葬式も親戚を助けてやっています。町内会のシルバー人材センター的な役割を買っています。
●須賀岡地自治会長 山本貴美子
6・10世帯の大所帯で行事を通じてお年寄りも子どもも元気に交流できるようにを大事にしています。
特に町内の運動会は小・中学生の参加や120名のお手伝いもあり、「素晴らしい商品」で400人分のトン汁が評判で今年30周年を迎えた。女性の自治会長は珍しいが、自分が会長を務めて12年になる私は自営業だが、「自治会長は小間使い」と考えてやってきました。それで町内が助かるなら会長買利に返ります。

●今、第3部会 農林水産業 商工業、交通
●今、第2部会 保健福祉、文化、教育
新潟市が進めている「新バスシステム構想」を勉強し、区民の理解を広げるために、その内容を「西区を豊かに」等で情報提供してきました。
新潟市・新潟交通にはBRT導入及び公共交通に関する質問・要請事項等を伝え、西区地域公共交通検討会議開催前に文書回答を頂き、議論してきました。
12月市議会での連節バス4台契約議案は賛成多数で可決されましたが、1月からは部会で平成27年度から始まる西区生活交通改善プランの策定に着手しました。
今後、各コミュニティ協議会を通じて地域の要望を吸い上げて、「改善プラン」に反映していきたいと考えています。
ご協力をお願いします。
od.



部会長 近藤 武雄



部会長 宗村 瑞枝